

強者の戦略

こんにちは、世界史の北林です。今回は京都大学の問題に取り組んでいただきたいと思います。

【京都大学 2016年】

西暦8世紀半ば、非アラブ人ムスリムを主要な支持者としてアッバース朝が成立したことを契機に、イスラーム社会の担い手はますます多様化していった。なかでも9世紀以降、イスラーム教・イスラーム文化を受容した中央アジアのトルコ系の人々は、そののち近代に至るまでイスラーム世界において大きな役割を果たすようになる。この「トルコ系の人々のイスラーム化」の過程について、特に9世紀から12世紀に至る時期の様相を、以下の二つのキーワードを両方とも用いて300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

マムルーク

カラハン朝

「トルコ人のイスラーム化」は馴染みがない人が多いかと思いますが、世界史の中では重要な出来事として、しばしば出題されます。イスラーム世界の中ではトルコ人の動向はすごく大事なんです。トルコというと中東にある国を思い出しますが、もともと彼らは中央アジアにいました。その地域はトルキスタンと呼ばれますね。なお、2022年の東京大学第1問は8世紀以降のトルキスタンの歴史がテーマでした。トルコ人の動向はしっかり整理しておくといよいでしょう。この問題に挑戦して、知識の確認をしてくださいね。

世界史 北林